人権が尊重され、みんなが住みやすい明るい社会を築こう

ひまわり

第58号
令和6年3月1日

発行／倉敷市水島中学校区人権学習推進委員会 事務局／倉敷市水島公民館 倉敷市水島北幸町1−2 Tel.086-444-2541

京都フィールドワーク 9月30日(土)～10月1日(日)

人権学習推進委員 平松 智子

九月三〇日、十月一日の2日間、京都フィールドワーク（倉敷市教育委員会人権教育推進室主催）に参加し、京都市内の施設や史跡を巡り、様々な人権課題について学ばせていただきました。

まず、最初に訪れたのが「ウトロ平和記念館」。ウトロとは、戦時中につくられ、日本社会から置き去りにされた朝鮮人のまちのことです。学芸員の方の話、館内の見学、ウトロ放火事件の跡地などのフィールドワーク。自分たちのまちを守るためにウトロに住む人々が闘い続け、日本市民・在日コリアン・韓国市民が協力して人権と平和を勝ち取った現実に、ともに生きて出会うことの尊さを痛感しました。同時に、私が社会の差別や偏見に対して、自分のこととして本当に考えているだろうか…、他人事でなく人権問題を解決する当事者だと意識せねば…、人権問題を正しく理解し認識を深めていきたい…など、様々なことを考えました。

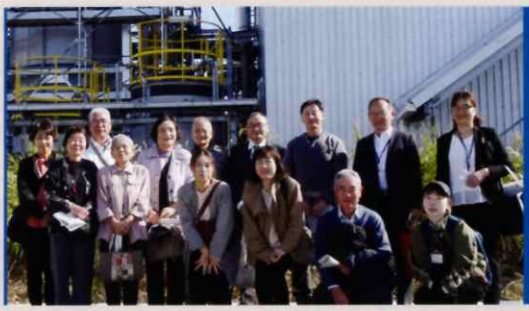
翌日は醍醐寺三宝院に行きました。豊臣秀吉が設計した花見用庭園。その中心に配された名石「藤戸石」。倉敷市藤戸町で採掘されたのかも…と、とても親近感を覚えました。当時「河原者」と呼ばれ、非道な扱いを受けた人たちが関わり、彼らの類い稀な才能の数々に驚かされました。

最後に訪れた学校歴史博物館。京都では学制公布の3年前、明治2年に日本で最初の学区制の小学校「番組小学校」が創られました。町づくりは人づくりと考え、学問が推奨されたようです。そこには、小学校創設の資料をはじめ、教科書・教材・教具などの教育資料、さらに卒業生が寄贈した数々の美術工芸品が収集保存されていました。京都を輝かせた西陣織、京都友禅、京焼などの伝統工芸が、学校という場で子どもたちへ伝え育まれてきた記録を見ることができました。

『みんなのしあわせのために』という人権課題に対し、自分のできることが少しずつですが、講演会や研修に参加するごとに見えてきているように感じます。日が経つにつれ、風化し、他人事になってしまう問題だからこそ、これからも勉強し行動に移していきたいと思います。

学校歴史博物館

人権課題：環境問題 研修視察



私たちを取りまく環境について考える

十月二十一日(土)

今年度の研修視察は、「私たちを取りまく環境について考える～子ども達に持続可能な地球を残すために～」というテーマで、バイオディーゼル岡山(株)食品リサイクル工場を視察しました。推進委員など十四名の方が参加し、三戸工場長さんの説明を聞いた後、実際に工場の中を見学させていただきました。

「脱炭素社会の実現」に向けての最先端の取組を目の当たりにすると同時に、「食品ロス」や「飢餓」などの問題についても考えた意義深い研修となりました。

◆参加者の感想◆

○普段なかなか見学できない食品リサイクル工場を視察できて、貴重な体験でした。フードロスを少しでも減らすよう努めたり、エネルギー資源を大切にしたりと、自分でできることに取り組みたいと思いました。

○廃棄食品から電気をつくる過程を見せていただいたり、詳しい説明を受けたりすることができて、とても学びの多い研修でした。

○たいへん興味深い内容で、化石燃料資源の乏しいわが国において様々なものを資源として活用して国力を維持していく大切さについて改めて考えました。

小ざくら保育園 秋まつり 10/13(金)
のぞみ保育園 落ち葉まつり 11/10(金)

今年度も2つの保育園との交流を行いました。小ざくら保育園の秋まつりでは、みこしの運行やお店屋さんごっこを行いました。のぞみ保育園の落ち葉まつりでは、落ち葉を使った作品作りや発表会の参観を行いました。

参加者から「地域と保育園をつなぐ意味でとてもよい取組だった」「子どもたちの発想力に驚かされ、よい影響を受けた」などの感想が聞かれ、その目的を十分に達成することができたことがうかがえました。

のぞみ保育園

小ざくら保育園

倉敷市立第五福田認定こども園

みんなは野菜のお父さん！お母さん！

こども園に夏野菜の苗を植えました。「何をしてあげたら大きく育つだろう？」「どんなことをしてあげたら、野菜たちは嬉しい気持ちかな？」と子どもたちは小さな野菜の苗を見ながら興味津々です。「みんなは野菜のお父さんやお母さんみたいだね」と保育者が声をかけると、「野菜のお父さんやお母さんになる！」とさっそくやる気満々で野菜のお世話がスタートしました。「草が生えとるよ。抜いてあげんと栄養が野菜に届かないよ」「野菜ものどが乾いているんじゃない？」と暑い日もジョウロに水を入れて畑を往復している子ども、野菜がどうなっているかなと登園後すぐに見に行く子どもなど野菜の生長をみんなで楽しみにしている様子が伺えました。

ある日、キュウリの葉っぱにアブラムシを発見!!「キュウリを助けよう！」と一人の男の子が図鑑で調べてくれました。アブラムシは牛乳で退治できることが分かり、毎日牛乳スプレーをかけてくれました。そのおかげで元気がなかったキュウリは大復活しました。

夏野菜を育てる経験から、みんなで考えたり、話し合ったり、役割ができてきたことに子どもたちの成長を感じることができました。トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシ、オクラ、ゴーヤ、ピーマンなどたくさんの立派な夏野菜を収穫することができて、数を数えたり、夏野菜カレーを作って食べたり、野菜スタンプをしたり、収穫後も夏野菜の話題で盛り上がりました。

子どもたちが夏野菜を大切に優しい気持ちで育てたように、一人ひとりの子どもに寄り添い安心感のもとで生活することができるこども園でありたいと思っています。そして、遊びを通して保育者や友達とのかかわりを深める中で、子どもたちのやりたいことや叶えたいことを実現できるような保育を積み重ね、目に見えない“感じる心”を今後も大切にしていきたいと思います。

倉敷市立第四福田小学校

「未来からの引き算、個性の時代へ～コノヒトカンから始まる物語」

本校では、11月18日（土）に、ＰＴＡ人権教育講演会を行いました。講師に、一般社団法人コノヒトカン代表理事の三好千尋先生をお迎えして、「未来からの引き算、個性の時代へ～コノヒトカンから始まる物語」という演題で、講演をしていただきました。

三好先生は、コロナ禍において、貧困家庭がさらに深刻化していることを知り、フードロスと貧困問題解決の一助になるようにと、「コノヒトカン」という名前の缶詰を作り、こども食堂や児童養護施設に届ける事業に取り組みました。周囲の人々に反対されながらも、自分が主役になって社会を変えていったコノヒトカンの取組をスイミーの物語にたとえ、たくさんの人々と協力して、困難に負けないで、未来を明るいものにしていくために活動することの大切さも同時に教えてくださいました。

講演を聴いた保護者からは、「コノヒトカンは、たくさんの人の想いがつまった『世界一あったかい缶詰』だと分かりました。みんなが幸せになれるように、自分にできることやみんなでできることを、子どもたちと一緒に考えていきたい」というような感想が寄せられました。

保護者と共に講演を聞いていた児童からは、「私もSDGsを身近なことからしていきたいです」「古城池高校の人から教えてもらっていたけど、自分も応援したくなりました」といった、積極的な取組の期待できる感想もありました。

この講演が、保護者の方々や子どもたちと「世界をよりよくするために、自分にできることは何だろう」と、考えていくことのできる第一歩となることと思います。

人権作文

「どんなことでも全力で」

倉敷市立第四福田小学校　6年　山本　小夏

私には、好きなこと、得意なこともあれば、嫌なこと、苦手なこともあります。今まで、色々な人と関わってきた中から、私は、どんなことでも、全力でがんばることの大切さを学びました。

私は、体育が苦手でした。それで、「どうせ、できない」と、あきらめてしまうことが多々ありました。でも、パラアーチェリー選手の大江さんの講演を聞いて、その考えが変わりました。大江選手は右半身がまひしていて、アーチェリーどころか、いつも通りの生活をおくることすら難しい状態なのに、パラアーチェリーの現えき選手として活やくしているということにおどろき、そして、強く尊敬しました。体が不自由な人でも、全力でがんばって、結果を出しているのに、自分ががんばらないのはだめだと思い、最近は、苦手なことでも積極的にがんばろうと思っています。

でも、「体が不自由だから」大江さんの努力がすばらしいのではなく、どんな体や環境であろうとも、よい結果を出すことを目標にあきらめず努力することが、とても大切なことであると思いました。だから、私は、大江さんを心から尊敬することができます。

大江さんの話を聞いて、難しいなと思うことがあっても、不自由だなと思うことがあっても、それを言い訳にせずに、自分と向き合えることのすばらしさを改めて知ることができました。

私は、これからも、困難にも負けず、色々なことに挑戦することのできる機会があると思います。その度に、大江さんから学んだことを思い出して、どんなことでも、全力でがんばっていきたいです。

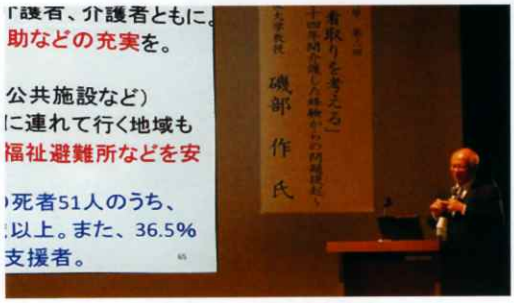
人権課題：高齢者等

第3回 人生を豊かにするこころ学 10月18日（水）

元日本福祉大学教授
磯部 作氏

「介護・看取りを考える～妻を14年間介護した経験からの問題提起」

奥様・お母様の介護と看取りをした体験を、詳細な記録やたくさんの写真に基づいて具体的に話していただきました。また、介護に対する心構えや看取りのあり方、さらには、今後の人生における家族との過ごし方や夫婦の向き合い方について改めて考える機会になりました。「周りの人に感謝すること」「人に寄り添うこと」「できないことではなく、できることに目を向けること」という生きる上で大切な姿勢について学びました。



《参加者の感想》
- 実体験の話を聞けてよかったです。現実はなかなか難しくてできないことが多いですが、「介護の心得」を参考に前向きにやっていこうと思いました。
- 「ありがとう」という言葉が表現できるよう、ともに手を取り合って生きていこうと思いました。
- 亡くなった母の看取りを思い出しました。これから、私と妻のどちらが先に具合が悪くなるか分かりませんが、僕が元気だったら、妻の世話をできるだけ寄り添ってしてあげたいです。

人権課題：子ども

第4回 人生を豊かにするこころ学 11月9日（木）

任意団体K&代表
冠野 真弓氏

「ヤングケアラーってなぁに？～ケアが必要な親・きょうだいと暮らしてきた子どもの立場から～」

最近よく聞くようになった「ヤングケアラー」という言葉。自らの体験に基づいた具体的で分かりやすいお話で、ケアラーとして生きる子どもや若者の実情、関わり方や支え方についてかなり理解が深まったと思います。また、ケアラーを苦しめるのも楽にするのも周囲の人々であることから、子どもや若者を取りまく地域社会の大切さを改めて認識しました。

《参加者の感想》
- ヤングケアラーについて、「困っているのなら早く大人に助けを求めたらいいのに‥」くらいの知識しかなかったです。経験された人の話は、奥深くてずっしりと心に響きました。
- 視点が広がりました。元気に生きていること、それがありがたい。先生の素晴らしい生き方を応援したいと思いました。
- 「あなたを必要としている人は、目の前にいる」という言葉が強く印象に残りました。この言葉をもとに、今後丁寧に人間関係をつくるよう努めたいと思います。

人権課題：被災者・防災

第5回 人生を豊かにするこころ学 12月9日（土）

香川大学地域強靭化研究センター
特命准教授 磯打千雅子氏

「『ご近所関係』を防災・減災の仕組みに」

データに基づいた災害リスクの解説や真備町や第五福田小学区の取組の様子について話していただき、災害に備えるということは日々の積み重ねが大切であることを再認識する機会となりました。また、地域づくりをすることこそが、最大の防災・減災の備えとなることも教えていただきました。最後には、磯打氏のゼミ生である水島地区出身の田中さんのお話も聞きました。お二人のお話には、社会的弱者を置き去りにしない地域社会をつくるためのヒントがたくさん含まれていました。

ゼミ生の田中さん

《参加者の感想》
- 地域のつながりが防災を考える際のきっかけになることをお聞きして、地域・近所の関係性を大切にしていきたいと思いました。
- いつもの生活に慣れてしまっているので、改めて身の回りを確かめてみたいと思いました。お隣の方と久しぶりに挨拶をしなければと思います。
- 難しいことだけれど、皆のつながりが一番。そして、やる気だと思います。他人事ではないということをいつも頭に入れて生活したいし、知人に伝えることも必要だと思いました。

人権学習推進委員・事務局員等研修会

テーマ『地域社会をみんなのお家に』

水島こども食堂ミソラ♪
代表　井上 正貴氏

今年度の研修は、水島で生まれ育ち、現在、水島で子どもたちの幸せのために活動している井上氏を講師に迎えて行いました。子どもの貧困の実態やハルハウスの活動についてのお話を聞き、グループに分かれて意見交換をしました。また、当事者の意見発表もあり、水島地域の課題について考える機会にもなりました。とても活発で有意義な研修の時間となりました。

参加者の感想

☆は中学生の感想

♡現実を知り、目を向けていくことの大切さを知りました。子どもが安心して暮らせる社会の実現に向け、少しでもできることを考えていきたいと思います。

♡貴重かつ水島の現状を包み隠さず話していただきありがとうございました。地域で、自分ができることを続けていこうと思いました。

☆貧困の現状についてのデータを見てショックを受けました。学校に来られない人や体調の悪い人の話を聞いてあげたい、力になりたい、と思いました。

☆当事者の方のお話が一番印象に残りました。すぐにできることはないかもしれないけど、知識を得て自分にできることを考えたいと思います。

第2回 人権作品展　12月2日(土)～10日(日)

人権週間に合わせて、水島公民館展示室で第２回人権作品展を行いました。小中学生の人権ポスター・標語や近隣の保育園・幼稚園・こども園の子どもたちの「はあとくん」(水島中学校区の人権キャラクター)のぬり絵、合計 315 点の作品を展示し、公民館利用者や地域の方など,たくさんの方に見ていただきました。

大事にしてネ 人権グッズを作りました

今年度の人権啓発グッズとして、小中学生の人権作品を印刷した「救急絆創膏」と「はあとくん」をあしらった「マルチポーチ」を作成しました。ポーチはペンケースやペットボトルカバーとして使えます。今後の人権学習の事業でお披露目します。

ひまわり賞、決まる!!

552名の方々がご覧になりました。

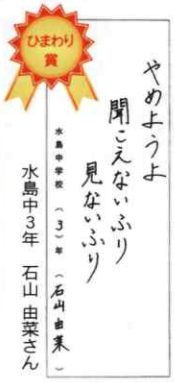
水島公民館祭（十月十四日・十五日）に合わせて、水島小・第四福田小・第五福田小・水島中の児童生徒に出品していただいた人権ポスター・標語を展示しました。

二日間で、五百五十二名の方が観覧くださり、「一番心に残った作品」を投票してもらいました。その結果、ポスターは小田遥翔さん（水島小・6年）、標語は石山由菜さん（水島中・3年）がそれぞれ"ひまわり賞"に決定しました。二人の作品だけでなく、多くの力作が来館者の心をとらえていたようでした。

今年度出品していただいた標語を使った「人権カレンダー」を作りました。水島公民館のロビーに設置しています。

水島小６年　小田 遥翔さん

人権カレンダー



水島中３年　石山 由菜さん